

## 令和4年度 学校教育自己診断の結果と分析〔令和4年12月実施〕

○回答率は保護者 171 名 68%（昨年度 64%）、児童生徒 175 名 69%（昨年度 59%）、教職員 102 名 80%（昨年度 90%）である。

【児童生徒】 ※今年度は、小学部の児童と中学部・高等部の生徒を分けて分析した。

・小学部においては、「わからない」「不明」の回答がどの設問においても半数前後となった。「はい」「いいえ」の回答に着目すると、ほとんどの児童がどの設問でも肯定的に回答している。「じゅぎょうでタブレットをつかうことがありますか。」の問いでは「はい」が 33%と若干低い数値である。これは、現状小学部児童に配当されているタブレットが児童数の約半数に留まっていることにもよる。教員による ICT 教材の活用は活発であるが、今後、児童自身の活用についても、実態に応じ検討していく必要がある。

・中学部・高等部の回答で、今年度新規の「先生は、あなたががんばったことをみとめてくれますか。」の問いでは 75.9%が「はい」、0.8%が「いいえ」と答えており、概ね良い結果であった。また、「授業でタブレットを使うことがありますか」の問いでは 74.4%が「はい」、3.0%が「いいえ」と答えており、授業においては活発に活用している状況がうかがえる。

【保護者】

・「学校の様子を授業参観・連絡帳・便り・ホームページ等によって知ることができる。」「教職員は、子ども一人ひとりのニーズに応じた指導・支援を行っている。」「個別の教育支援計画（指導計画）について、本人・保護者のニーズを踏まえて作成している。」等、16 問中 10 問が肯定的回答率 8 割以上と、概ね良い結果であった。

・「学校は、保護者、学校運営協議会等の意見を教育活動に積極的に取り入れている。」「学校運営に、校長のリーダーシップが発揮されている。」「災害に備え、防災計画の見直しと充実を図っている。」の設問では「わからない」という回答が 3 割程度あり、発信の方法について工夫が必要である。

【教職員】

・肯定的回答率 80%以上が 41 問中 37 問と好結果であり、教職員が本校の教育活動について概ね手応えを感じているということが読み取れる。

・「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされている。」「業務の効率化と業務分担の見直しを図り、教育活動の充実をめざしている。」の肯定的回答率が 76%程度と、他の設問と比較しやや低いため、業務分担について更なる工夫が必要と考える。